

【全体概要】

近年の荒茶価格の低迷に伴い、鹿児島県種子島地域では他産地と差別化した販売戦略の構築を目指しており、特に他産地では栽培困難な極早生品種の活用を検討している。そこで、本事業では、種子島の温暖な気候を活かすことのできる新極早生品種「しゅんたろう」について生産技術を確立し、さらに実需者との連携を強化しながら付加価値の高い商品開発を行い、生産者の所得向上を図る。

新品種・新技術等の概要

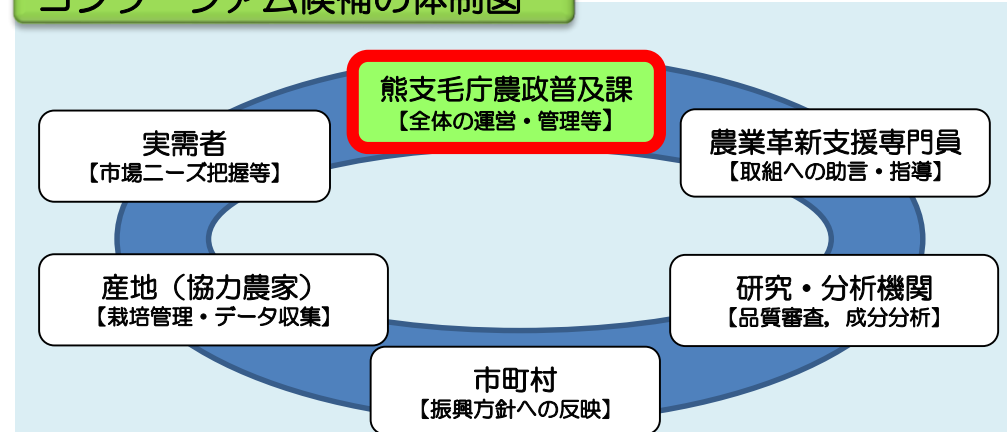
- 品種名：「しゅんたろう」（茶極早生茶品種）
- 開発者：（独）農業・食品産業技術総合研究機構野菜茶業研究所
- 開発年：2011年
- 普及状況：「しゅんたろう」は極早生品種であり、耐寒性が弱いため寒冷地での栽培には適さず、温暖地での栽培が望まれる。鹿児島県内でもほぼ種子島のみで栽培されているが、現時点では植栽面積は130aと少なく、ほとんどが育成中（幼木）である。



主な取組内容

- 品種の特性の把握
 - ・品種特性調査
栽培特性及び品質評価
(官能審査, 含有成分量調査, 越冬芽の生態解明)
 - ・付加価値形成の検討
摘採前における最適な被覆期間の検討 摘採後における萎凋の有効性検討
紅茶への適応性検討
- 品種・技術の実需者ニーズ等適応性試験
 - ・仕上げ茶への適性調査
- 栽培・技術マニュアル（情報誌）の作成
- 産地・実需者の発掘調査
 - ・既植栽生産者における栽培管理状況調査
- 品種・技術と産地・実需者とのマッチング活動
 - ・産地へ「しゅんたろう」の品種特性・付加価値形成方法等について情報提供
 - ・実需者へ「しゅんたろう」の品質調査結果等について情報提供
 - ・産地と実需者を対象とする意見交換会を開催

コンソーシアム候補の体制図



課題と今後の対応

- 実証結果等の概要
 - ・種子島における「しゅんたろう」は、地域の主要極早生品種「くりたわせ」と比べ摘採期が2日程度早く、3月下旬には一番茶の摘採が可能である。
 - ・一番茶の窒素成分含有率は「くりたわせ」や早生品種の「さえみどり」と比べ低いため、液肥散布等の品質向上対策の実施について考慮する必要がある。
 - ・「しゅんたろう」を使用した紅茶は、発酵性が良好であり、きれいな『水色』とすっきりした『滋味』が特徴である（H27年も継続調査予定）。
- 市場評価（実需者のニーズ把握）
 - ・実需者からは「しゅんたろう」の『香気』に対する期待が大きい。その為、『香気』を弱めるような長期間の摘採前被覆は避ける必要がある（5日程度が望ましい）。
 - ・また、平成26年産は「すっきりして飲みやすい」、「渋みが少なく日常生活で楽しめる」との評価あり。
- 今後の対応
 - ・実需ニーズの『香気』の発揚を促す栽培管理・製茶技術の検討。
 - ・付加価値形成の検討（地域希少品種とのブレンド茶、紅茶等の検討）。
 - ・産地、実需者一体となったコンソーシアム候補の形成。